

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	宝塚市立中山五月台小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	障害児学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	19
児童数	52	58	76	60	65	62	4	373	

研究の概要

1、研究主題

『基礎的・基本的な内容を身につけ、一人ひとりが意欲的に取り組む学習を目指して』

2、研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

〔3年生〕 少人数授業

- ・算数科で、1学級を2集団に分割し、ハーフサイズ指導を実施。
低学年の具体思考から抽象思考に転換する時期で、児童の理解度に応じて、きめ細かい指導が必要であるため。
- ・総合的な学習の一部で、課題に応じて2学級を3分割して指導。
総合的な学習の場における児童個々の多様な学習課題に対応するため

〔4年生〕 少人数授業

- ・算数と国語で、2学級を3集団に分割して指導。
学力差が生じやすい教科であり、基礎的・基本的な事項の確実な習得と、自ら学ぶ学習意欲の向上を目指すため。
- ・総合的な学習の一部で、課題に応じて2学級を3分割して指導。

〔5・6年生〕 教科担任制と少人数授業

- ・5年生及び6年生の学級担任による交換授業と、学級担任外教員・教頭・推進教員の教科指導により、学活・道徳を除く全領域・全教科で実施。
複数の教員が学習・生活指導に関わることが一人一人の児童の学習意欲の向上・個性の伸長につながり、各教員が教科の専門性を生かした授業が展開できるという本校の検証結果に基づく。また、中学校への円滑な移行を考慮したとき、高学年での導入が妥当との判断により。
- ・5年生及び6年生の算数・理科で、同室複数指導などの少人数授業を実施。
定着度に格差があり、児童一人一人に応じたきめ細かな指導が必要とされることから。
- ・総合的な学習の一部で、課題別グループ編成による少人数授業を実施。

【本年度3学期における交換授業及び教科担任制実施状況】

5年1組担任：A	6年1組担任：C	図工専科：E	推進教員：G
5年2組担任：B	6年2組担任：D	音楽専科：F	教 頭：H

	国語	社会	算数	理科	図工	音楽	家庭	体育	道徳	学活	総合
5年1組	A	H	BADG	CB	E	F	D	G	A	A	AB
5年2組	A	H	BAFG	CB	E	F	D	G	B	B	F
6年1組	D	G	CDG	BCG	E	F	F	A	C	C	CD
6年2組	D	G	CDG	BCG	E	F	F	A	D	D	G

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 『基礎的・基本的な内容を身につけ、一人ひとりが意欲的に取り組む学習を目指して』</p> <p>仮説 「子どもたち一人ひとりに付けたい力を明確にし、学習過程・学習活動・学習形態、学習空間等を工夫した学習指導を行えば、自ら課題を見つけ、主体的に判断し、解決していける子どもが育つであろう。」</p> <p>研究内容・方法 本研究の方法として、次の内容を追求することによって、仮説を実証することにした。 指導内容の厳選と系統化（基礎的・基本的な内容の習得） 個が生きる指導体制の工夫・改善（学習展開の工夫・支援の工夫） 意欲の継続と指導の改善（指導と評価の一体化を大切にした授業づくり）</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ及び仮説 初年度のテーマ及び仮説を踏襲し、成果や課題を検証した上でその見直しを図る。</p> <p>研究内容・方法 基本的な方法論は、初年度を踏襲しながら、個人カルテを作成したり、客観的なデータを用いて子ども一人ひとりの育ちを具体的に検証する。学年全体の学力の向上の検証については、調査方法の研究や各種の客観的な資料をもとに行う。なお、個々の育ちを検証するためには、評価規準は不可欠なものであり、それに基づいた評価基準により、一人ひとりの学力の達成状況の把握及び向上につなげる。</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ及び仮説 初年度のテーマ及び仮説を踏襲し、研究内容や方法については、前年度の成果を基盤にしながら、一人一人の育ちや学力の向上について、さらに研究を深める。</p> <p>研究内容・方法</p>
--------	--

年度	基本的には、前年度の検証結果を基に、改善を加えて研究をすすめる。個々の育ち、学年全体としての育ちを継続的に検証しながら追指導を行い、本研究の有効性について明らかにする。
----	--

(3) 研究体制

<p>学校教育改革推進委員会</p> <p>構成： 校長、教頭、各学年1、推進教員2、教育課程1</p> <p>活動： 教科担任制及び少人数授業を中心としたフロンティア事業の企画・推進状況の把握、評価等による課題整理と見直し。時間割・時程表等、教育課程全般にわたる企画・検討。</p> <p>開催： 月1回を定期開催とし、その他必要に応じて随時開催する。</p>

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>それぞれの教員の専門性と指導力の向上によって、「わかりやすい授業」が生み出され、個々の児童の学習意欲の高まりが確認された。</p> <p>中学年及び高学年の算数を中心とした教科で、少人数授業など「きめ細かな指導」を導入することによって、一人一人の習熟度や基礎・基本の定着度をより鮮明につかむことができた。そのことによって、個に応じた到達目標が設定でき、学力向上につながっている。</p> <p>複数の教科担任から児童に関する情報が集まることにより、一人一人を多面的にとらえることができ、生活・学習の両面で児童のもっている個性や可能性を引き出すことができた。</p> <p>少人数授業や教科担任制では、学級解体による課題別学習集団編成など多様な学習形態が可能になり、児童や教員の意識にも「学年・学級の壁」を越えた学習・生活交流等が定着してきた。</p> <p>小学校高学年から中学校への教科担任制への移行がスムーズになり、小・中の連携が活発化してきた。</p>																																												
<p>教科担任制児童意識調査結果(7月実施 対象：高学年児童。ただし6年のみ記載)</p> <p>調査項目(一部抜粋)</p> <p>・教科ごとに先生がかわる教科担任制について</p> <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H 13</th> <th>H 14</th> <th>H 15</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア、よいと思う</td> <td>71 %</td> <td>77 %</td> <td>69 %</td> </tr> <tr> <td>イ、よくないと思う</td> <td>3 %</td> <td>3 %</td> <td>6 %</td> </tr> <tr> <td>エ、どちらとも言えない</td> <td>26 %</td> <td>20 %</td> <td>25 %</td> </tr> </tbody> </table> <p>・教科担任制による授業について</p> <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H 10</th> <th>H 11</th> <th>H 12</th> <th>H 13</th> <th>H 14</th> <th>H 15</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア、わかりやすい</td> <td>71 %</td> <td>71 %</td> <td>75 %</td> <td>65 %</td> <td>76 %</td> <td>63 %</td> </tr> <tr> <td>イ、わかりにくい</td> <td>4 %</td> <td>4 %</td> <td>4 %</td> <td>5 %</td> <td>5 %</td> <td>9 %</td> </tr> <tr> <td>ウ、以前と変わらない</td> <td>25 %</td> <td>25 %</td> <td>21 %</td> <td>30 %</td> <td>19 %</td> <td>28 %</td> </tr> </tbody> </table>		H 13	H 14	H 15	ア、よいと思う	71 %	77 %	69 %	イ、よくないと思う	3 %	3 %	6 %	エ、どちらとも言えない	26 %	20 %	25 %		H 10	H 11	H 12	H 13	H 14	H 15	ア、わかりやすい	71 %	71 %	75 %	65 %	76 %	63 %	イ、わかりにくい	4 %	4 %	4 %	5 %	5 %	9 %	ウ、以前と変わらない	25 %	25 %	21 %	30 %	19 %	28 %
	H 13	H 14	H 15																																									
ア、よいと思う	71 %	77 %	69 %																																									
イ、よくないと思う	3 %	3 %	6 %																																									
エ、どちらとも言えない	26 %	20 %	25 %																																									
	H 10	H 11	H 12	H 13	H 14	H 15																																						
ア、わかりやすい	71 %	71 %	75 %	65 %	76 %	63 %																																						
イ、わかりにくい	4 %	4 %	4 %	5 %	5 %	9 %																																						
ウ、以前と変わらない	25 %	25 %	21 %	30 %	19 %	28 %																																						

教科担任制保護者アンケート調査結果（1月実施 対象：高学年保護者）
調査項目（一部抜粋）

・教科担任制を今後も続けることについて

	H 11	H 12	H 13	H 14	H 15
ア、賛成である	86 %	82 %	95 %	100 %	77 %
イ、反対である	3 %	2 %	0 %	0 %	5 %
ウ、どちらとも言えない	11 %	16 %	5 %	0 %	18 %

2. 今後の課題

小学校段階における教科担任制では、児童理解のための綿密な教員間の連携や情報交換が必要不可欠である。また、学級・学年分割を行う中学年でも同様のことが言える。特に本校のような2学年にまたがる教科担任制ではそうした時間の確保が難しく、年度によっては連携に濃淡が生じることもある。児童の教科担任制や少人数授業に対する戸惑いの中には、それぞれの教員の学習のルールや授業の進め方の違いによるところもある。一方では、そうした点を教科担任や少人数担当の個性として受け入れている児童も多い。授業の質をより高めていくには、学習規律や指導法などに対する教員間の合意形成がどの程度まで必要なかを見極めなければならない。

教科担任制の保護者アンケートでは、学級担任と学級児童との接点が少なくなることへの不安があるが、これは教員の側にとっても従来から抱えている課題の一つである。2校時を学級担任の教科に組み入れるなど時間割上の配慮等を行いながら、課題克服に向けた取り組みを続けている。

学校行事や学年行事などによって、固定時間割が変更されるケースもめずらしくはない。本校のように5・6年の学級担任による交換授業を導入している場合はなおさら、その時間割調整が複雑になる。次週の行事や出張等を考慮しながら週時間割表を作成し、各教科の進度等の調整を続けている。

学力等把握のための学校としての取組

算数科における第2回定着度調査（平成16年2月末実施予定）

対象：3年（2学級）4年（2学級）5年（2学級）6年（2学級）

内容：3年・4年については各学年の学習指導要領に準拠した計算領域

5年・6年については、国立教育政策研究所教育課程センターの

□ 実施した「小中学校教育課程実施状況調査」の小学校算数の一部

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・各都道府県からの学校視察受け入れ態勢の充実

（授業公開、研究冊子づくり等・・・本年度受け入れ校及び団体 8）

・阪神地区研修会での実践発表及び実践交流 : 兵庫県西宮市

・フロンティアスクール指定校への研究視察 : 兵庫県龍野市

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無